

単元構想 単元名【筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう】

教材名【『鳥獣戯画』を読む】

(全6時間)

6年

⑤【単元目標】 絵と文章との関係をおさえて筆者の考え方を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。

⑥【単元の言語活動】 絵を解説した文章を読み、自分のものの見方を広げる。

相手：6年児童に 目的：自分の見方を広めるために 方法：文章で 場面：国語の授業で 評価：自分の表現を通して相手に伝えられたか

④【教材の特徴】

- ・筆者のものの見方とその対象が明確で、読み手が納得したり自分の見方と比較したりできる。
- ・絵と文章を照らし合わせて読む方法が身に付く。

③【既習事項】

- ・『想像力のスイッチを入れよう』（5年）では、筆者の見方を捉えることを学習した。

②【児童の実態】

- ものごとに興味や好奇心をもって取り組むことができる。
- △考えを書いたり読み取ったりすることが苦手で、抵抗感を感じる児童が多い。

①【重点とする指導事項】

- ・筆者の意図と表現の工夫との関連について考えている。

読むこと（1）ウ

⑦【言語活動成立の条件】

- ア 筆者のものの見方に迫るために、どこに表れるかを知ることができる。
- イ 書かれていることを知識として無批判に受け止めるような読み（受動的な読み）から、自分の考えをもち、比べながら考える読みへと変換することができる。

⑧【単元の流れ】

【第1次】1時間	【第2次】3時間	【第3次】時間	交流活動の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見直しをもつ。 ・筆者のものの見方や感じ方と、自分との違いに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章と絵を対応させながら読む。 ・表現や構成の工夫点を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者と自分の見方や感じ方を比べる。 ・書いたものを読み合い、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ交流の仕方を交流のパターンとして理解させておく。

並行読書・・・ 絵画に関する本や、「批評文」「鑑賞文」の載った資料を紹介する。

⑨【単位時間の工夫】

【第1次】	【第2次】〈本時〉	【第3次】	交流活動の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・筆者と同じ絵を提示し、絵を「読む」ことを体験させる。 ・自分の感じ方をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの事実を根拠として、解釈や評価をしているかを考えさせる。 ・工夫がどんな効果を上げているのかを捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着眼点を意識させて、自分の考えをまとめさせる。 ・自分と人の見方や感じ方を比べながら読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班交流し、班長のモデルを見ることにより、苦手意識や抵抗感が薄まるようにする。

⑩【支える学習環境】

- ・『鳥獣人物戯画』についての資料
- ・『絵巻物』についての資料

【研究とのかかわり】

- (1) 願いを明確にした単元指導計画の工夫
- ・一枚の絵を見て解説文を書き、自分の解説文と筆者の解説文を比べ、見方や書きぶりの違いに気付かせる。
- (2) 考えを深めるための指導の工夫
- ・観点を与え、工夫や効果を考えやすくさせる。
 - ・個人追究が弱い児童にも、ペアやグループ交流を通して、考え方を理解させる。
 - ・深めの発問で、見方を伝える工夫を活用させることで、その効果を実感させる。
- (3) 自己の高まりを自覚できるまとめ方の工夫
- ・工夫とその効果についてまとめ、活用した書き出しをつくらせる。
 - ・引きつける書き出しや、言い切りの文末の両方が活用できたら↑、片方なら↗で評価させる。

◆本時のねらい

書き出しや文末の表現等、効果的に伝えるための工夫（①書き出し②文末）について考え、その効果を読み取ろう。

◆本時の展開（4／6）

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点
つかむ	1 <u>前時の学習を振り返る</u> 「着目点」と「解説（説明）」で伝える方法についての学習を思い出す。	・前時のノートを見返させる。
	2 <u>学習活動に見通しをもつ</u> 筆者の見方を読者に伝える工夫や、その効果について考えよう。	・読者が納得するための工夫を理解することが、自分がつくる鑑賞文につながることをおさえる。
考える	3 <u>〈工夫①〉〈工夫②〉について考える</u> 【個人追究】 以下の観点について、工夫やその効果をノートに書く。 ① <u>書き出しの工夫</u> 例) 絵の説明を詳しく書いて引きつける ② <u>文末の工夫</u> 例) 言い切りの形で、強く主張する ・ <u>（その他の工夫）</u> 例) 投げかけの言葉で、読者も一緒に考える 【班交流】 個人の考えを班（生活班）で交流し、友マークで書き加える。 【全体交流】 班で交流して確認した工夫や効果を発表し、まとめる。 ・書き出しの工夫として、 <u>実況中継のようにすると、読者に興味をもたせることができる。</u> ・文末の工夫として、 <u>体言止めにすると、印象が強くなる。</u> ・その他の工夫として、 <u>誘いかける言葉を遣うと、引きつけられる。</u>	・工夫に気付くことができない児童には、補助プリントで考えさせる。 ・新たに「なるほど」と感じた見方や考え方を書き加えさせる。
	4 <u>別の絵の書き出しを考えて書く</u> 学習した〈工夫①②〉を活用し、教科書とは別の場面を描いた絵をもとに、書き出しを考えて書く。 例) 『知らないよー。までー。後ろを伺いながらふざけるように走る猿。笑いながら追いかける兎。そして、それぞれの手には草木の枝。いったい何が起きたのでしょうか。みなさんも知りたくありませんか。』 【ペア交流】 筆者の工夫①②を取り入れ、①工夫して書かれているか ②工夫の結果、効果があるかを評価し合う。 ・短い文で書かれているか。言い切りの形で書かれているかを評価する。 【全体交流】 みんなに紹介したいペアの作品を発表する。	・工夫の中から、自分が取り入れようとするものを選ぶ。 ・書き出しや文末の工夫の効果が実感できるように、別の場面の絵を提示する。
深める		
まとめる	5 <u>本時の学習を振り返る</u> 【個人の振り返り】 「引き付ける書き出し」や「言い切りの文末」を使って書く。 矢印で相互評価をする。（両方書く ↑ 、片方書く ↗ 、書けない →）	【評価規準】 工夫や効果について、書き表すことができる。（ノート）